

【研究業績】  
【Curriculum Vitae】

山田 不二子 医師、医学博士  
Fujiko Yamada, MD, PhD

Contact Details:

Name; Fujiko Yamada, MD, PhD  
Address; Sangenkai Yamada Clinic  
897-1 #101 Itado, Isehara-shi, Kanagawa-ken, 259-1145 Japan  
Telephone; +83-463-91-2826  
Fax; +83-463-91-9206  
Mobile Phone; 090-9145-4287  
E-Mail; [y-fujiko@mue.biglobe.ne.jp](mailto:y-fujiko@mue.biglobe.ne.jp)

Personal Information:

Date of Birth; April 29, 1960  
Citizenship; Japan  
Gender; Female  
Marital Status; Married

Education:

March, 1986; Graduated from Tokyo Medical and Dental University  
May, 1986; Conferred Degree of Medical Doctor  
April, 2000; Entered into Graduate School of Tokyo Medical and Dental University  
March, 2010; Graduated from Graduate School of Tokyo Medical and Dental University  
April, 2011; Entered into Graduate School of Mie University  
March, 2015; Graduated from Graduate School of Mie University  
March, 2015; Conferred Degree of Doctor of Philosophy in Medical Science

Work Experiences:

May, 1986 - June, 1987; Tokyo Medical and Dental University Hospital  
July, 1987 - June, 1989; Oume Municipal General Hospital  
August, 1990 - October, 2004; Yamada Clinic  
November, 2004 - Present; Sangen-kai Yamada Clinic

Social Activities:

December, 1997; Establishment of Human and Family Support Network  
July, 1998; Establishment of Child Maltreatment Prevention Network (CMPN)  
April, 2003; Establishment of Kanagawa Professional Society on Abuse and Neglect of Children (KaPSANC)  
July, 2009; Establishment of Japanese Medical Society on Child Abuse and Neglect (JaMSCAN)  
July, 2015; Establishment of Child First Japan (CFJ) from Child Maltreatment Prevention Network (CMPN)

Managerial Positions:

Vice President of Sangen-kai Yamada Clinic  
President of Child First Japan (CFJ)

Vice President of Kanagawa Professional Society on Abuse and Neglect of Children (KaPSANC)

Board Member of Japanese Society for the Prevention of Child Abuse and Neglect (JaSPCAN)

Board Member of Japanese Medical Society on Child Abuse and Neglect (JaMSCAN)

Board Member of Japanese Child Abuse Prevention Citizen's Network (JCAPCNet)

1. 誌上発表

(1)英文原著

1. Fujiwara T, Yamada F, Okuyama M, Kamimaki I, Shikoro N, Barr RG. Effectiveness of educational materials designed to change knowledge and behavior about crying and shaken baby syndrome: A replication of a randomized controlled trial in Japan. Child Abuse & Neglect. 2012;36:613-620.
2. Yamada F and Fujiwara T. Prevalence of Self-Reported Shaking and Smothering and Their Associations with Co-Sleeping among 4-Month-Old Infants in Japan. Int. J. Environ. Res. Public Health. 2014;11:6485-6493.

(2)英文総説・著書：無し

(3)和文原著論文

1. 山田 不二子, 田中 真一郎, 彦根 倫子, 工藤 久美子, 林 節子, 定永 千寿子：乳幼児揺さぶられ症候群(Shaken Baby Syndrome)予防プログラムの試験的实施。子どもの虐待とネグレクト。2008;10(1):17-24.
2. 小橋 孝介, 溝口 史剛, 津留 智彦, 池原 甫, 齋藤 友康, 山田 不二子：院内虐待対応組織設立による虐待対応の変化と課題。日本小児科学会雑誌。2013;117(8):1273-1278

(4)和文総説

1. 山田 不二子：性的虐待の診察方法。小児科臨床。2007;60(4):697-707.
2. 山田 不二子：第一次医療としての児童虐待への対応。全国保険医団体連合会「月刊保団連」No. 983, No. 984, 2009.
3. 山田 不二子：乳幼児揺さぶられ症候群。小児科診療。2009;72:201.
4. 山田 不二子：被虐待児症候群。小児科診療。2009;72:202.
5. 山田 不二子：被虐待児症候群。小児科。2009;50(8):1305-1317.
6. 山田 不二子：子どもに対する性虐待の現状と初期対応。日本医師会雑誌。2009;138(5):900-904.
7. 山田 不二子：脳死下臓器提供者から被虐待児を除外するマニュアル改訂版。小児科臨床。2010;63(7):1561-1570.
8. 山田 不二子：性虐待。小児内科。2010;42(11):1818-1822.
9. 山田 不二子：乳幼児揺さぶられ症候群と代理によるミュンヒハウゼン症候群。日本医師会雑誌。2011;139(12):2556.
10. 山田 不二子：子ども虐待対応における警察の役割。警察政策。2011;13:25-58.
11. 山田 不二子, 溝口 史剛：子ども虐待。治療 臨時増刊号。2011;93:206-207.
12. 山田 不二子, 溝口 史剛：子ども虐待対応ガイド活用のすすめ。ナーシングビジネス。2011;5(11):52-53(1006-1007).
13. 山田 不二子：臓器移植と子ども虐待。小児科臨床。2011;74(10):1469-1473.
14. 山田 不二子：緊急度・重症度の医学的評価と鑑別診断。日本小児科医会会報。2011;42:31-33.
15. 山田 不二子：脳死下臓器移植と子ども虐待。チャイルドヘルス。2011;14(9):56(1572).

16. 山田 不二子：第2部：疾患 XX. 事故・その他 ミュンヒハウゼン症候群／代理ミュンヒハウゼン症候群. 小児疾患の診断治療基準 第4版. 小児内科. 2012;44:878-879.
17. 山田 不二子：脳死下臓器提供者から被虐待児を除外するマニュアルの使い方と課題. 子どもの虐待とネグレクト. 2012;14(2):203-216.
18. 山田 不二子：性虐待. 思春期学. 2013;31(1):42-46.
19. 山田 不二子：乳幼児揺さぶられ症候群の予防教育－赤ちゃんが泣いた時の対処法－. 周産期医学. 2013;44(1):91-95.
20. 山田 不二子：子どもを虐待から守る0次予防と一次予防－虐待を未然に防ぐためにできること. こころの科学. 2014;173(1):2-7.
21. 山田 不二子：法律と事例に学ぶ通告の重要性. 外来小児科. 2015;18(1):57-61.
22. 山田 不二子：消えた子ども問題の解決に向けた取り組み. 子どもの虐待とネグレクト. 2015;17(1):34-37.
23. 山田 不二子：これからの子ども虐待～現在と未来～「子ども虐待防止世界会議 名古屋 2014」を終えて. 小児看護. 2015;38(5):528-529.

#### (5)和文その他

1. 山田 不二子, 齊藤 雄介, 入江 洋一, 西田 賢司, 齊藤 博, 中村 裕子, 岡田 弘, 桜井 徹志, 坂本 保己：真正赤血球増加症に全身性エリテマトーデス, 後天性魚鱗癬を合併した高令男子の1例. 日本内科学会雑誌. 1990;79(2):113-114.
2. 山田 不二子, 田中 真一郎, 彦根 倫子, 工藤 久美子, 林 節子, 定永 千寿子：乳幼児揺さぶられ症候群(Shaken Baby Syndrome)予防プログラムの一例. 子どもの虐待とネグレクト. 2008;10(1):118-123.

#### 著書 (分担執筆)

1. 山田 不二子：事例④子どもの性虐待と医療. 「子どもを大切にする国」をめざして 子ども白書2010「子ども政策」づくりへの総合的提案. 日本子どもを守る会編, 東京, p58-59, 2010.
2. 山田 不二子：医療従事者のための子ども虐待防止サポートブック 医療現場からの発信. 奥山 眞紀子, 近藤 太郎, 高野 直久, 田村 陽子編. クインテッセンス出版, 東京, 2010.
3. 山田 不二子：XI. こころ・小児保健・思春期 4. 小児疾患として診る子ども虐待の考え方と対応は? 2011-2012 EBM 小児疾患の治療. 五十嵐 隆監修 石井 正浩, 清水 俊明, 滝田 順子, 平岩 幹男, 水口 雅, 横田 俊平, 横谷 進, 渡辺 とよ子編集. 中外医学社, 東京, p599-606, 2011.
4. 山田 不二子：乳幼児揺さぶられ症候群. 代理ミュンヒハウゼン症候群. 子育て支援ハンドブック. 日本小児医事出版社, 東京, p533-540, 2011.
5. 山田 不二子：コラム4 虐待. よくわかる健康心理学 初版. 森 和代, 石川 利江, 茂木 敏彦編. ミネルヴァ書房, 京都, p68-69, 2012.
6. 山田 不二子：第14章 スーパーバイザーとしての坂井先生. 子ども虐待への挑戦 医療、福祉、心理、司法の連携を目指して. 子どもの虐待防止センター監修 坂井聖二著 西澤哲編著. 誠信書房, 東京, p179-200, 2013.

## 監訳

1. 山田 不二子：第3章 付記 性虐待が疑われた時に：身体診察に際し，養育者からよく出る質問(p89-112)，第4章 子どもの性虐待における身体所見の証拠保存(p113-122)，第7章 性暴力における思春期の問題(p161-174)，第8章 性器肛門診察：診断に苦慮する鑑別診断(p177-193)，第13章 子どもの性虐待の医学的評価における法律的問題(p253-274)．プラクティカルガイド 子どもの性虐待に関する医学的評価 原著第3版 (マーティン・A・フィンケル，アンジェロ・P・ジャルディーノ編集 柳川 敏彦，山田 不二子，溝口 史剛，白川 美也子監訳 American Academy of Pediatrics) 診断と治療社，東京，2013.

## 2. 学会発表

- (1) 国際学会講演・シンポジウム：無し

## (2) 国内講演・シンポジウム

1. 山田 不二子：乳幼児揺さぶられ症候群(SBS)の解説．日本小児科学会 イブニングセミナー「子ども虐待診療セミナー」．2008年4月25日，東京．
2. 山田 不二子：脳死下臓器提供者から被虐待児を除外するマニュアルの使い方と課題．第53回日本小児神経学会総会．2011年5月28日，横浜．
3. 山田 不二子：子ども虐待防止 小児科医はどう関われるのか ー緊急度・重症度の医学的評価と鑑別診断ー．第22回日本小児科医会総会フォーラム．2011年6月12日，岐阜．
4. 山田 不二子：シンポジウム2「周産期からできる虐待予防」子ども虐待防止NPOの立場から．第42回日本看護学会 母性看護・小児看護 学術集会．2011年8月5日，東京．
5. 山田 不二子：脳死下臓器提供者から被虐待児を除外するマニュアル．第114回日本小児科学会学術集会．2011年8月14日，東京．
6. 奥山 眞紀子，山田 不二子，中田 憲悟，間 隆一郎：脳死下臓器提供者から被虐待児を除外するマニュアルの使い方と課題．臓器移植と子ども虐待．第17回日本子ども虐待防止学会学術集会いばらき大会．2011年12月2日，つくば市．
7. 山田 不二子：脳死下臓器提供者から被虐待児を除外するマニュアル．日本小児科学会 子ども虐待診療セミナー．2012年2月12日，名古屋．
8. 山田 不二子：性虐待が疑われる子どもに出逢ったら．日本小児科医会 子どもの心研修会．2012年5月13日，東京．
9. 山田 不二子：思春期の危機 性虐待．日本思春期学会．2012年9月2日，軽井沢．
10. 山田 不二子，田仲 淑子，松岡 太郎，山田 篤志，土屋 まゆみ，稗田 潤：How to CAPS・CPTの構築・運営・地域機関連携．2012年12月8日，高知．
11. 山田 不二子，仲 眞紀子，一場 順子，坪井 節子．司法面接と被害確認面接ー日本における実施状況とこれからの課題ー．2012年12月8日，高知．
12. 山田 不二子：性虐待．第42回セックス・カウンセリング研修会．日本性科学会．2013年5月26日，東京．
13. 山田 不二子：乳幼児揺さぶられ症候群(SBS)予防プログラム．第41回日本小児神経外科学会．2013年6月9日，大阪．

14. 山田 不二子：ChildFirst Japan の子どもの権利擁護センター構想。司法面接分科会，日本子ども虐待防止学会学術集会信州大会。2013年12月14日，松本。
15. 山田 不二子：指定発言。MDT分科会，日本子ども虐待防止学会学術集会信州大会。2013年12月14日，松本。
16. 山田 不二子：指定発言。AHT分科会，日本子ども虐待防止学会学術集会信州大会。2013年12月14日，松本。
17. 山田 不二子：児童虐待－そのときどう関わられたか～事例を検証する～。第16回「子どもの心」研修会。日本小児科医会。2014年5月10日，東京。
18. 山田 不二子：指定発言。シンポジウム：AHT（虐待による頭部外傷）を考える。第28回日本小児救急医学会学術集会。2014年6月6日，横浜。

#### (3) 国際学会一般演題発表

1. Fujiko Yamada. SBS Prevention Program in Japan. The 7th North American Conference on Shaken Baby Syndrome. Oct. 5<sup>th</sup>, 2008. Vancouver, British Columbia, Canada.
2. Takeo Fujiwara, Fujiko Yamada, Makiko Okuyama, Isamu Kamimaki, Nobuaki Shikoro, and Ronald G. Barr. Effectiveness of Educational Materials to Prevent Shaken Baby Syndrome: A replication of a randomized controlled trial in Japan. The 3<sup>rd</sup> Pediatric Abusive Head Trauma Conference. July 8<sup>th</sup>, 2011. San Francisco, California, USA.
3. Fujiko Yamada, Takeo Fujiwara, and Makiko Okuyama. Two peaks in age-related incidence curve of Shaken Baby Syndrome confirmed by child welfare facilities in Japan. The 4th Penn State Hershey International Conference on Pediatric Abusive Head Trauma. June 27<sup>th</sup>, 2013. Burlington, Vermont, USA.
4. Kota Takaoka and Fujiko Yamada. Why Multi-Disciplinary Team does not work well? Discussion about establishing the first Children's Advocacy Center (CAC) in Japan and the hindering factors of MDT for CSA. 30<sup>th</sup> International Symposium on Child Abuse, National Children's Advocacy Center. March 26<sup>th</sup>, 2014. Huntsville, Alabama, USA.

#### (4) 国内学会一般演題

1. 山田 不二子，工藤 久美子，林 節子，定永 千寿子，田中 真一郎，彦根 倫子：乳幼児揺さぶられ症候群(SBS)の予防プログラム。日本子ども虐待防止学会 第13回学術集会 みえ大会。2007年12月15日，三重。
2. 藤原 武男，山田 不二子，工藤 久美子，林 節子：乳幼児揺さぶられ症候群のメカニズムとその予防。日本子ども虐待防止学会第15回学術集会埼玉大会。2009年11月27日，さいたま市。
3. 柳川 敏彦，山崎 嘉久，市川 光太郎，小林 美智子，山田 不二子：新しい子ども虐待防止医療連携システムの確立をめざして。日本子ども虐待防止学会第15回学術集会埼玉大会。2009年11月28日，さいたま市。
4. 山田 不二子：子ども虐待・ネグレクト事件の刑事裁判における臨床医の役割。第3回日本子ども虐待医学研究会学術集会。2011年7月24日，福岡。
5. 高岡 昂，山田 不二子，原田 小夜，松岡 典子：SBS/AHT の診断アルゴリズムと予防策。日本における乳幼児揺さぶられ症候群(SBS)を巡る問題と今後の予防教育へ。第17回日本子ども虐待防止学会学術集会いばらき大会。2011年12月2日，つくば市。
6. 山田 不二子，溝口 史剛，舟橋 敬一，星野 崇啓，本山 景一，内山 健太郎：脳死下臓器提供者から被虐待児を除外するマニュアルは、医療者向けマニュアルの中でどこに位置するものか？ 子ども虐待診断および多機関連携における医療機関のあり方について－日本子ども虐待医学研究会青年部活動報告－。第17回日本子ども虐待防止学会

学術集会いばらき大会. 2011年12月3日, つくば市.

7. 山田 不二子: 司法小児科医(Forensic Pediatrician)の役割. 第5回日本子ども虐待医学研究会学術集会. 2013年7月20日, 東京.
8. 安 炳文, 田崎 みどり, 田上 幸治, 仙田 昌義, 田口 めぐみ, 小橋 孝介, 小穴 慎二, 溝口 史剛, 山田 不二子. 医療機関向け虐待研修プログラム (BEAMS) 受講前後の知識評価を目的とした質問票開発、およびその妥当性・信頼性を調査するためのパイロット研究. 第6回日本子ども虐待医学研究会学術集会. 2014年7月12日, 大阪.
9. 溝口 史剛, 小穴 慎二, 小橋 孝介, 田上 幸治, 安 炳文, 山田 不二子, 田口 めぐみ, 仙田 昌義, 田崎 みどり. 医療機関向け虐待対応研修 BEAMS : Stage3 概要紹介. 第6回日本子ども虐待医学研究会学術集会. 2014年7月12日, 大阪.